

2019年9月期連結決算

代表取締役社長 伊藤 滋

2019年11月14日



1. 2020年3月期通期計画に対する進捗

◆ 売上高の進捗率は48%、営業利益の進捗率は39%、経常利益の進捗率は43%

(億円)	2019年 9月期 A	2020年 3月期計画 B	進捗率 A/B	中期計画 最終年 2021年度
売上高	4,470	9,400	48%	10,000
営業利益	99	255	39%	310
経常利益	115	265	43%	-
四半期純利益 (親会社帰属)	81	170	48%	-

2. セグメント別進捗率

(単位：億円)

	売上高			営業利益		
	19年9月期	年間計画	進捗率	19年9月期	年間計画	進捗率
漁業・養殖セグメント	192	377	51%	1	23	4%
商事セグメント	2,145	4,514	48%	14	51	27%
海外セグメント	802	1,789	45%	30	88	34%
加工セグメント	1,176	2,418	49%	33	67	49%
物流セグメント	83	167	50%	10	19	53%
その他	72	135	53%	6	7	86%
全社	-	-	-	6	0	-
合計	4,470	9,400	48%	99	255	39%

3-①. 事業見通し<漁業・養殖セグメント>

セグメント	ユニット	売上高			営業利益		
		19年9月期	年間計画	進捗率	19年9月期	年間計画	進捗率
漁業・養殖	漁業・養殖	192	377	51%	1	23	4%

下期事業環境

- ・ カツオ・キハダマグロともに軟調な相場が継続するが、漁獲低下とユーザー在庫消化による年明けの相場回復期待。(漁業)
- ・ クロマグロ相場は堅調。カンパチは供給不足から高値継続。ブリは軟調なものの、年明け以降相場は回復の見込み。(養殖)

事業施策

- ・ 効率的操業(漁業)
- ・ クロマグロの出荷体制の整備(養殖)

中長期施策

- ・ 底はえ縄漁業の強化
⇒メロ漁獲の底はえ縄船・第8新生丸が2020年2月竣工(漁業)
- ・ 種苗生産により、完全養殖カンパチ・ブリの出荷準備(養殖)



3-②. 事業見通し<商事セグメント>

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高			営業利益		
		19年9月期	年間計画	進捗率	19年9月期	年間計画	進捗率
商事	水産商事	743	1,514	49%	14	35	40%
	荷受	1,092	2,437	45%	△2	9	-
	畜産商事	310	563	55%	2	7	29%
商事セグメント小計		2,145	4,514	48%	14	51	27%

下期事業環境

- 多くの魚種で相場が軟調に推移(水産商事)
- 不安定な鮮魚の出荷状況と市場内流通の長期低落傾向の継続(荷受)
- アフリカ豚コレラの影響が懸念(畜産)

事業施策

- 在庫の適正化と販売量に見合った買付(水産商事)
- 加工事業の拡大と量販店向け販売の強化(荷受)

中長期施策

- 量販店や外食産業において人手不足が顕著
⇒高次加工品の開発、新規メニューの提案(水産商事)



3-③. 事業見通し<海外セグメント>

セグメント	ユニット	売上高			営業利益		
		19年9月期	年間計画	進捗率	19年9月期	年間計画	進捗率
海外	海外	275	600	46%	27	52	52%
	北米	528	1,189	44%	3	36	8%
海外セグメント小計		802	1,789	45%	30	88	34%

下期事業環境

- タイ:原料のカツオ市況は下落、鶏肉価格は安定(海外)
- オセアニア:ニュージーランドの漁獲は好調、オーストラリアの漁獲は若干不調(海外)
- スケソウダラの操業および製品市況は堅調に推移(北米)

事業施策

- タイ:ペットフードの販売拡大(海外)
- オセアニア:残された漁期での漁獲枠の消化に向け、効率的な操業の実施(海外)
- 工場のさらなる省力化、マーケットへの最適販売の推進(北米)

中長期施策

- オーストラリアで操業船を新造(海外)
- ヨーロッパ販売体制の継続強化(北米)



3-④. 事業見通し<加工セグメント>

セグメント	ユニット	売上高			営業利益		
		19年9月期	年間計画	進捗率	19年9月期	年間計画	進捗率
加工	家庭用冷凍食品	293	616	48%	5	14	36%
	家庭用加工食品	191	395	48%	13	20	65%
	業務用食品	603	1,235	49%	7	18	39%
	化成	89	172	52%	8	15	53%
加工セグメント小計		1,176	2,418	49%	33	67	49%

下期事業環境

- 米飯・麺・中華の調理品は堅調に推移 (家庭用冷凍食品)
- 青魚の原料状況が不安定 (家庭用加工食品)
- 原料コスト、人件費等の増加 (業務用食品)

事業施策

- 米飯、麺類等の販売促進 (家庭用冷凍食品)
- 原料の調達強化 (家庭用加工食品)
- 自社工場製品の販売強化 (業務用食品)



中長期施策

- 生産効率改善、コア製品生産能力拡大
- 商品開発強化、ブランド戦略継続

3-⑤. 事業見通し<物流セグメント>

セグメント	ユニット	売上高			営業利益		
		19年9月期	年間計画	進捗率	19年9月期	年間計画	進捗率
物流	物流	83	167	50%	10	19	53%

下期事業環境

- 保管需要は引き続き高水準で推移

事業施策

- 値上交渉の継続と保管需要に応じた庫腹の確保

中長期施策

- 中部新センター建設に向けた準備



【参考】ユニット別 売上高/営業利益 進捗率

(単位：億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		19年9月期	18年9月期	増減	年間計画	進捗率	19年9月期	18年9月期	増減	年間計画	進捗率
漁業・養殖	漁業・養殖	192	168	24	377	51%	1	7	△7	23	4%
商事	水産商事	743	726	17	1,514	49%	14	16	△1	35	40%
	荷受	1,092	1,153	△62	2,437	45%	△2	1	△4	9	-22%
	畜産商事	310	278	32	563	55%	2	0	2	7	29%
商事セグメント小計		2,145	2,158	△13	4,514	48%	14	17	△3	51	27%
海外	海外	275	280	△6	600	46%	27	9	18	52	52%
	北米	528	552	△24	1,189	44%	3	18	△16	36	8%
海外セグメント小計		802	832	△30	1,789	45%	30	28	2	88	34%
加工	家庭用冷凍食品	293	298	△5	616	48%	5	8	△2	14	36%
	家庭用加工食品	191	206	△15	395	48%	13	11	2	20	65%
	業務用食品	603	584	19	1,235	49%	7	4	2	18	39%
	化成	89	83	6	172	52%	8	8	0	15	53%
加工セグメント小計		1,176	1,172	5	2,418	49%	33	31	2	67	49%
物流	物流	83	82	0	167	50%	10	8	2	19	53%
その他		72	73	△1	135	53%	6	6	△0	7	86%
全社		-	-	-	-	-	6	5	1	0	-
合計		4,470	4,485	△15	9,400	48%	99	102	△3	255	39%

Thank You



MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他本書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。